

次世代を担う学生に商船学科を紹介 ～2017年度国立高等専門学校（商船学科）5校合同進学ガイダンス～

日本船主協会では、2008年7月より人材確保タスクフォースを結成し、優秀な日本人船員確保のための広報活動を展開しております。その一環として、海技者というキャリアパスを、若い世代に広く意識してもらうべく、神戸（6月10日・三宮研修センター）、広島（6月25日・ワークピア広島）、東京（7月29日・日本船主協会）、横浜（7月30日・ナビオス横浜）の4会場において、国立高等専門学校（商船学科）5校合同進学ガイダンスを開催しました。

この取り組みは、商船学科のある国立高等専門学校(以下商船系高専)5校(富山高専、鳥羽商船、大島商船、広島商船、弓削商船)と連携し開催しており、今回で10回目を迎えました。

各会場では、当協会より、日常生活で海運が支える割合や日本人船員の重要性および代表的な船舶の紹介を行ったほか、同時期に開催された「海の日」関連の見学会においても、海運の重要性をアピールしていることに触れました。また、横浜会場においては、当協会 磯田裕治副会長が挨拶を行い、参加者が将来の選択肢のひとつとして海技者を志すことに大きな期待を寄せました。

商船系高専の先生方からは、学習カリキュラムや学生生活の様子、卒業後の進路など、具体的な指針となる説明が行われました。

卒業後の進路紹介として、商船系高専卒業生が多く活躍する長距離フェリー業界を代表して、日本カーフェリー労務協会の長田栄弘常務理事事務局より業界に関しての説明があり、続いて、当協会会員会社の若手航海士・機関士が、商船系高専へ進学した動機や、学生生活、就職後の仕事の内容や休暇の過ごし方等を写真と共に紹介しました。講演後には、各校ごとにブースが設けられ、各校の先生、学生、卒業生と参加者が熱心に情報交換を行う光景が見られました。

人材確保タスクフォースでは、今後も商船系高専をはじめとした海事系教育機関や海運業界の認知度向上および海事人材の確保の一助となるよう、関連機関と協力して幅広い活動を継続して行くこととしています。

各会場参加者（計212名）内訳

神戸会場：53名（中学生21名 保護者29名 その他3名）
広島会場：94名（中学生44名 保護者46名 その他4名）
東京会場：18名（中学生6名 保護者9名 その他3名）
横浜会場：47名（中学生19名 保護者24名 その他4名）

商船系高専 全体説明を担当していただいた先生方

神戸会場：国立大島商船高等専門学校 角田哲也 教授
広島会場：国立広島商船高等専門学校 辻啓介 学校長
東京会場：国立鳥羽商船高等専門学校 伊藤友仁 教授
横浜会場：国立富山高専 山本桂一郎 教授

現役航海士・機関士(高専卒業生)の皆様(順不同)

神戸会場：
日本郵船(株) 山森大幹 一等機関士
日本郵船(株) 大島直紀 二等航海士
広島会場：
(株)商船三井 岡本涼 二等航海士
川崎汽船(株) 中野陽介 二等機関士
東京会場：
(株)商船三井 澤田敬生 二等機関士
鶴見サンマリン(株) 渡邊哲也 二等航海士
横浜会場：
川崎汽船(株) 鬼頭和江 二等航海士
JX オーシャン(株) 吉瀧宏貴 三等機関士



神戸会場 全体の様子 (6/10)



神戸会場 各校ブースの様子



広島会場 全体の様子 (6/25)



広島会場 各校ブースの様子



東京会場 全体の様子 (7/29)



東京会場 各校ブースの様子



横浜会場で挨拶をする磯田副会長 (7/30)



横浜会場 各校ブースの様子